

現行計画の概要と基本目標の達成状況等について

1 現行計画の概要

現行計画では、平成 23 年 4 月から令和 3 年 3 月までの 10 年間を計画期間とし、以下のとおり、基本的な考え方のもと、5 つの「基本目標」、3 つの「施策の基本的方向」を掲げているほか、循環型社会やごみの適正処理に係る体制構築に向けた「施設整備計画」、「処理体制」及び「計画の進行管理及び施策の推進」について定めている。

平成 28 年度の間改定では、東日本大震災によるごみ排出量の急増や低炭素都市づくりへの対応等を踏まえ、基本目標の追加や数値の見直しを実施したところ。

(1) 基本的な考え方（抜粋）

今後の 10 年、100 年を見据え、私たち一人ひとりがライフスタイルを見直し、さらなる資源循環を進めるなど、自然環境や地球環境に配慮した真に持続可能な社会づくりを進め、「杜の都仙台」の豊かな環境を、次の世代へ引き継いでいく。

(2) 基本目標

- ① ごみ総量 . . . 令和 2 年度に 360,000 トン以下とする
- ② 1 人 1 日当たりの家庭ごみ（平成 28 年見直し時に追加設定）
. . . 令和 2 年度に 450 グラム／人・日以下とする
- ③ リサイクル率 . . . 令和 2 年度に 35%以上とする
- ④ 燃やすごみの量 . . . 令和 2 年度に 305,000 トン以下とする
- ⑤ 温室効果ガス排出量
. . . ごみ処理に係る温室効果ガス排出量を中長期的に低減する

(3) 施策の基本的な方向性（関連施策の実施状況については資料 2 に記載）

- ① 資源循環都市づくり～さらなる循環型社会の構築～
- ② 低炭素都市づくり～低炭素社会の構築に向けた統合的な取組みの推進～
- ③ 市民・事業者・市の連携や三者が一体化した施策の推進

(4) 処理施設の整備計画

ごみ焼却施設について、ごみ量やごみ質の予測などを踏まえた施設のあり方の検討、既存施設の整備にあたっての長寿命化及び基幹的設備の改良による省エネルギー、高エネルギー回収設備の導入検討 など

(5) 処理体制

生活ごみの適正かつ効率的な収集運搬体制の構築、事業ごみの減量を促進する制度のあり方、剪定枝等の資源物をリサイクルする体制の構築について検討 など

(6) 計画の進行管理及び施策の推進

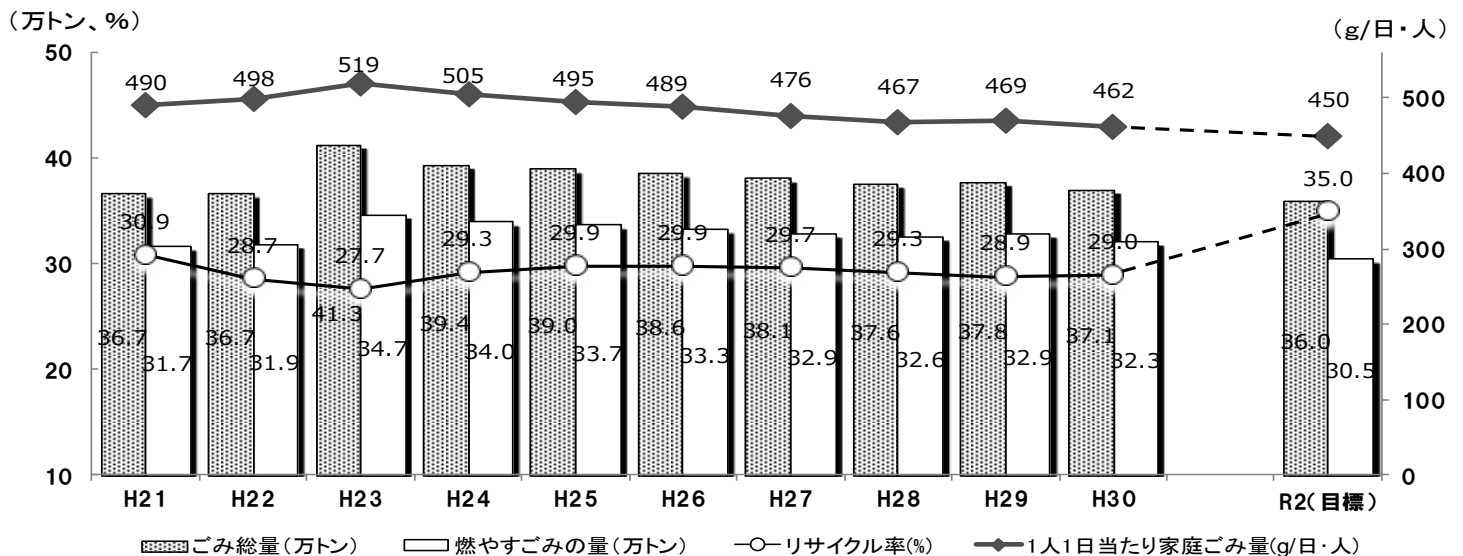
PDCA サイクルによる進行管理、仙台市廃棄物対策審議会への報告・審議、国の制度や社会経済状況等に応じた必要な見直し など

2 基本目標の達成状況

- ・「ごみ総量」については、平成 30 年度実績は 370,566 トンで、平成 26 年度から 4 年間で 4.0%の減となっているが、目標年度の令和 2 年度までの残り 2 年間で更に 2.9%の減量が必要。
- ・「燃やすごみの量」については、平成 30 年度実績は 322,515 トンで、平成 26 年度から 4 年間で 3.3%の減となっているが、目標年度の令和 2 年度までの残り 2 年間で更に 5.4%の減量が必要。
- ・「1 人 1 日当たりの家庭ごみ」については、平成 30 年度実績は 462g/人・日で、平成 26 年度から 4 年間で 5.5%の減となっており、目標 450 g/人・日に近づいている。
- ・「リサイクル率」については、震災以降 29%前後と横ばいで推移しており、目標の 35%以上とは乖離が大きい。

基本目標	平成 21 年度	平成 26 年度	平成 30 年度			令和 2 年度	
			実績	21 年度比	26 年度比	目標	30 年度実績比
ごみ総量[トン]	366,785	385,863	370,566	+3,781 +1.0%	△15,297 △4.0%	360,000	△10,566 △2.9%
生活ごみ排出 [トン]	231,519	242,958	233,408	+1,889 +0.8%	△9,550 △3.9%	238,000	+4,592 +2.0%
家庭ごみ排出量 [トン]	184,812	191,381	183,513	△1,299 △0.7%	△7,868 △4.1%	177,000	△6,513 △3.5%
事業ごみ排出量 [トン]	135,266	142,905	137,158	+1,892 +1.4%	△5,747 △4.0%	122,000	△15,158 △11.1%
1人1日当たりの家庭ごみ排出量 [g/人・日]	490	489	462	△28 △5.7%	△27 △5.5%	450g	△12 △2.6%
リサイクル率[%]	30.9	29.9	29.0	△1.9ポイント △6.1%	△0.9ポイント △3.0%	35%	+6.0ポイント +20.1%
燃やすごみの量 [トン]	316,591	333,424	322,515	+5,924 +1.9%	△10,909 △3.3%	305,000	△17,515 △5.4%
【参考】本市人口 (10月1日現在) [人]	1,033,515	1,073,242	1,088,669	+55,154 +5.3%	+15,427 +1.4%	1,088,000	△669 △0.1%

(※現行計画の策定にあたり基準年度とした平成 21 年度、中間見直し時の基準年度とした平成 26 年度実績とその比較を記載。)

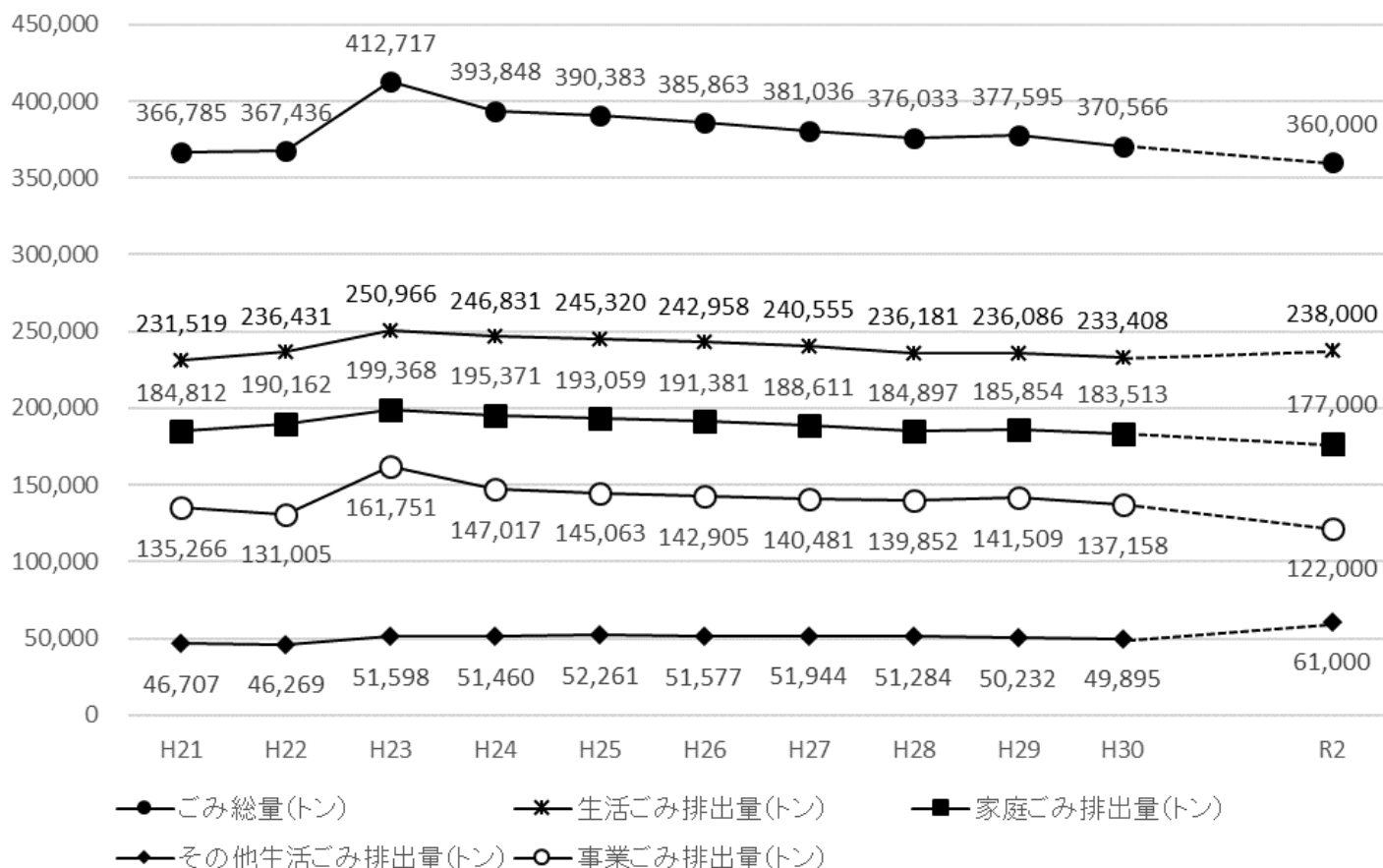


3 ごみ排出量の推移について

- ・「ごみ総量」については、東日本大震災後の影響により一時期増加したものの、以降は減少傾向となっている。平成 30 年度実績は 370,566 トンと、平成 21 年度比で 3,781 トン (1.0%) の増となり、概ね震災前の水準に戻りつつある。
- ・内訳の「生活ごみ排出量」、「事業ごみ排出量」とも同様の傾向。
- ・「生活ごみ排出量」のうち、資源物等を除いた「家庭ごみ排出量」については、震災前の平成 21 年度実績を既に下回っている状況。
- ・「事業ごみ排出量」についても同様に震災以降は減少傾向にあるものの、目標値との乖離が大きく、排出事業者に対してさらなる減量を訴求していく必要がある。

(単位：トン (特に記載がないものを除く))

	平成 21 年度	平成 26 年度	平成 30 年度			令和 2 年度	
			実績	21 年度比	26 年度比	目標	30 年度実績比
ごみ総量 (再掲)	366,785	385,863	370,566	+3,781 +1.0%	△15,297 △4.0%	360,000	△10,566 △2.9%
生活ごみ排出量 (再掲)	231,519	242,958	233,408	+1,889 +0.8%	△9,550 △3.9%	238,000	+4,592 +2.0%
家庭ごみ排出量 (再掲)	184,812	191,381	183,513	△1,299 △0.7%	△7,868 △4.1%	177,000	△6,513 △3.5%
その他生活ごみ排出量	46,707	51,577	49,895	+3,188 +6.8%	△1,682 △3.3%	61,000	+11,105 +22.3%
事業ごみ排出量 (再掲)	135,266	142,905	137,158	+1,892 +1.4%	△5,747 △4.0%	122,000	△15,158 △11.1%

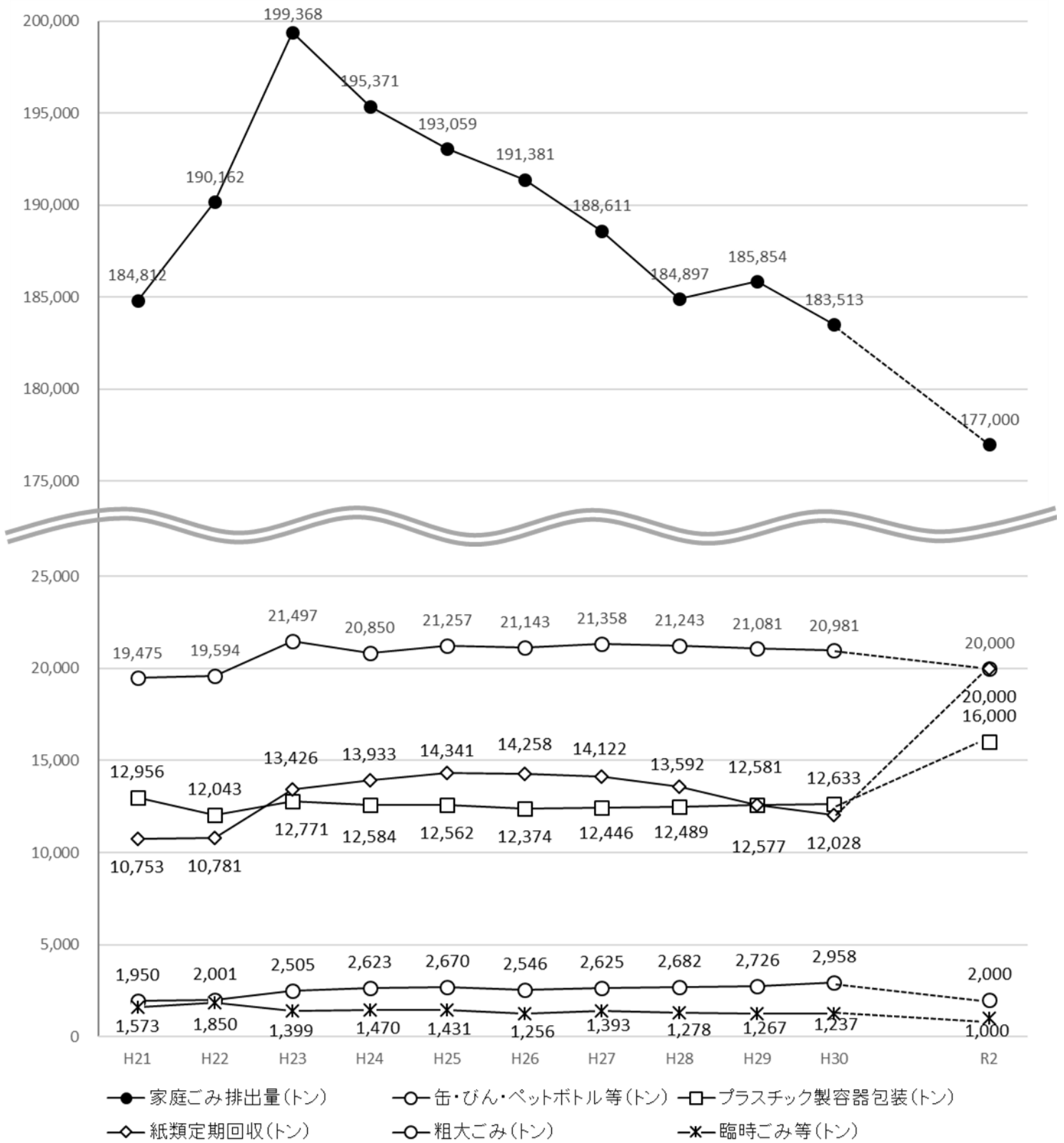


4 生活ごみの推移

- ・「缶・びん・ペットボトル等」の排出量は令和2年度目標を既に達成しているもののスチール缶・生きびんなどが減少している反面、容器重量の軽いアルミ缶・ペットボトルは増加しており、全体では横ばいで推移。
- ・なお、「缶・びん・ペットボトル等」の収集に用いる容器（通称：P箱）の年間処理箱数も増加にあり、収集の負担が増している。
- ・「プラスチック製容器包装」の排出量は、おおむね横ばいで推移しているものの、家庭ごみへの混入割合は近年増加傾向であり、さらなる分別の徹底が必要。
- ・「紙類定期回収」量は、令和2年度目標に対して乖離が大きい状況。
- ・「粗大ごみ」排出量は、震災後も増加傾向が続いている。

（単位：トン（特に記載がないものを除く））

	平成21年度	平成26年度	平成30年度			令和2年度	
			実績	21年度比	26年度比	目標	30年度実績比
生活ごみ排出量（再掲）	231,519	242,958	233,408	+1,889 +0.8%	△9,550 △3.9%	238,000	+4,592 +2.0%
家庭ごみ排出量（再掲）	184,812	191,381	183,513	△1,299 △0.7%	△7,868 △4.1%	177,000	△6,513 △3.5%
缶・びん・ペットボトル等	19,475	21,143	20,981	+1,506 +7.7%	△162 △0.8%	20,000	△981 △4.7%
プラスチック製容器包装	12,956	12,374	12,633	△323 △2.5%	+259 2.1%	16,000	+3,367 +26.7%
紙類定期回収	10,753	14,258	12,028	+1,275 +11.9%	△2,230 △15.6%	20,000	+7,972 +66.3%
粗大ごみ	1,950	2,546	2,958	+1,008 +51.7%	+412 +16.2%	2,000	△958 △32.4%
臨時ごみ等	1,573	1,256	1,295	△278 △17.7%	+39 +3.1%	1,000	△295 △22.8%

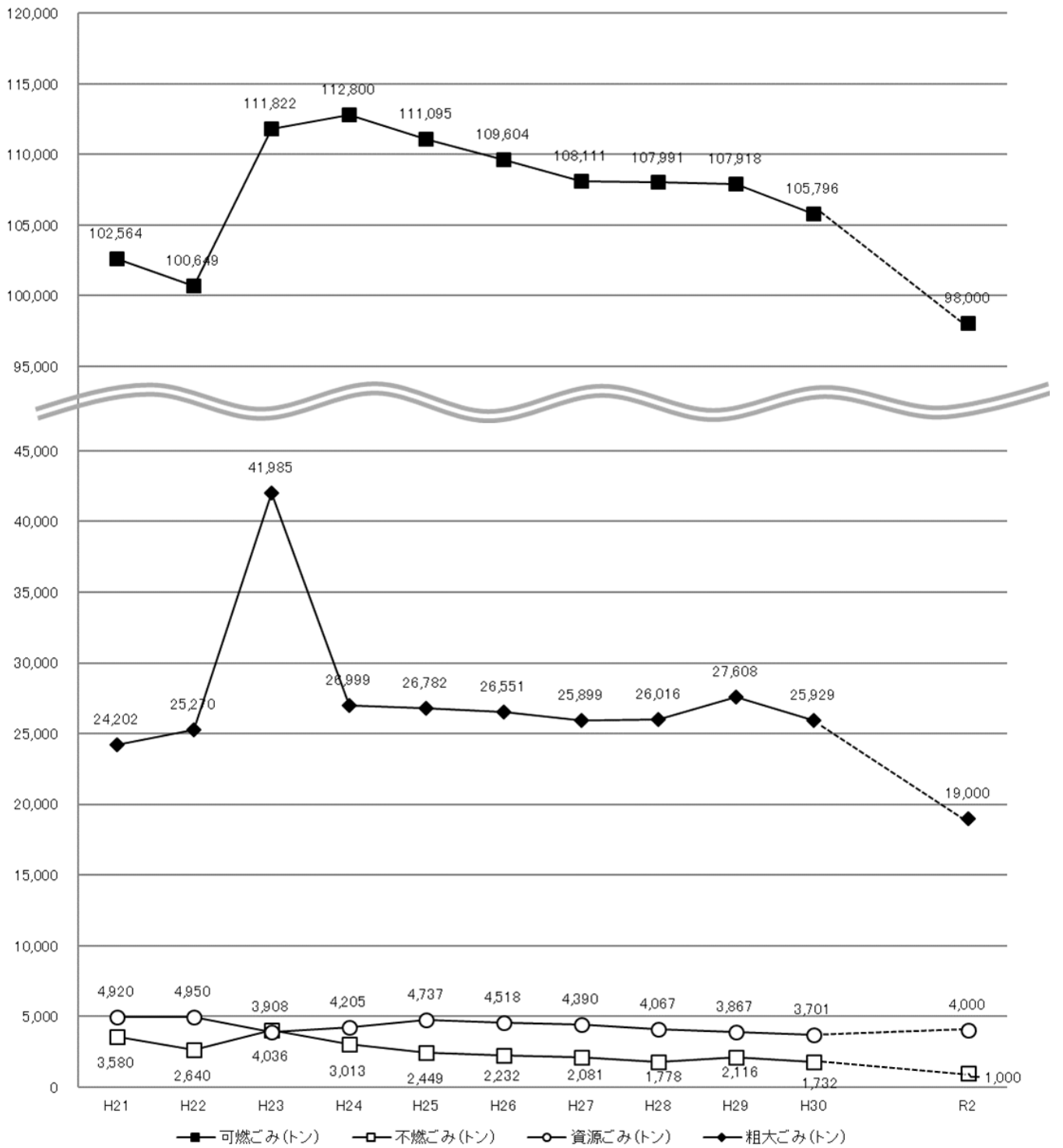


5 事業ごみの推移

- ・事業ごみの大部分を占める「可燃ごみ」の排出量は、震災後減少傾向にあるが、目標達成に向けてさらなる減量が必要。
- ・「不燃ごみ」の排出量は、震災後は減少傾向にある。
- ・「資源ごみ」の排出量は、平成 25 年をピークに減少している。
- ・「粗大ごみ」の排出量は、震災直後に急増したものの、その後横ばいで推移している。目標値との乖離も大きい。

(単位：トン (特に記載がないものを除く))

	平成 21 年度	平成 26 年度	平成 30 年度			令和 2 年度	
			実績	21 年度比	26 年度比	目標	30 年度実績比
事業ごみ排出量 (再掲)	135,266	142,905	137,158	+1,892 +1.4%	△5,747 △4.0%	122,000	△15,158 △11.1%
可燃ごみ	102,564	109,604	105,796	+3,232 +3.2%	△3,808 △3.5%	98,000	△7,796 △7.4%
不燃ごみ	3,580	2,232	1,732	△1,348 △37.7%	△500 △22.4%	1,000	△732 △42.3%
資源ごみ	4,920	4,518	3,701	△1,219 △24.8%	△817 △18.1%	4,000	299 8.1%
粗大ごみ	24,202	26,551	25,929	+1,727 +7.1%	△622 △2.3%	19,000	△6,929 △26.7%

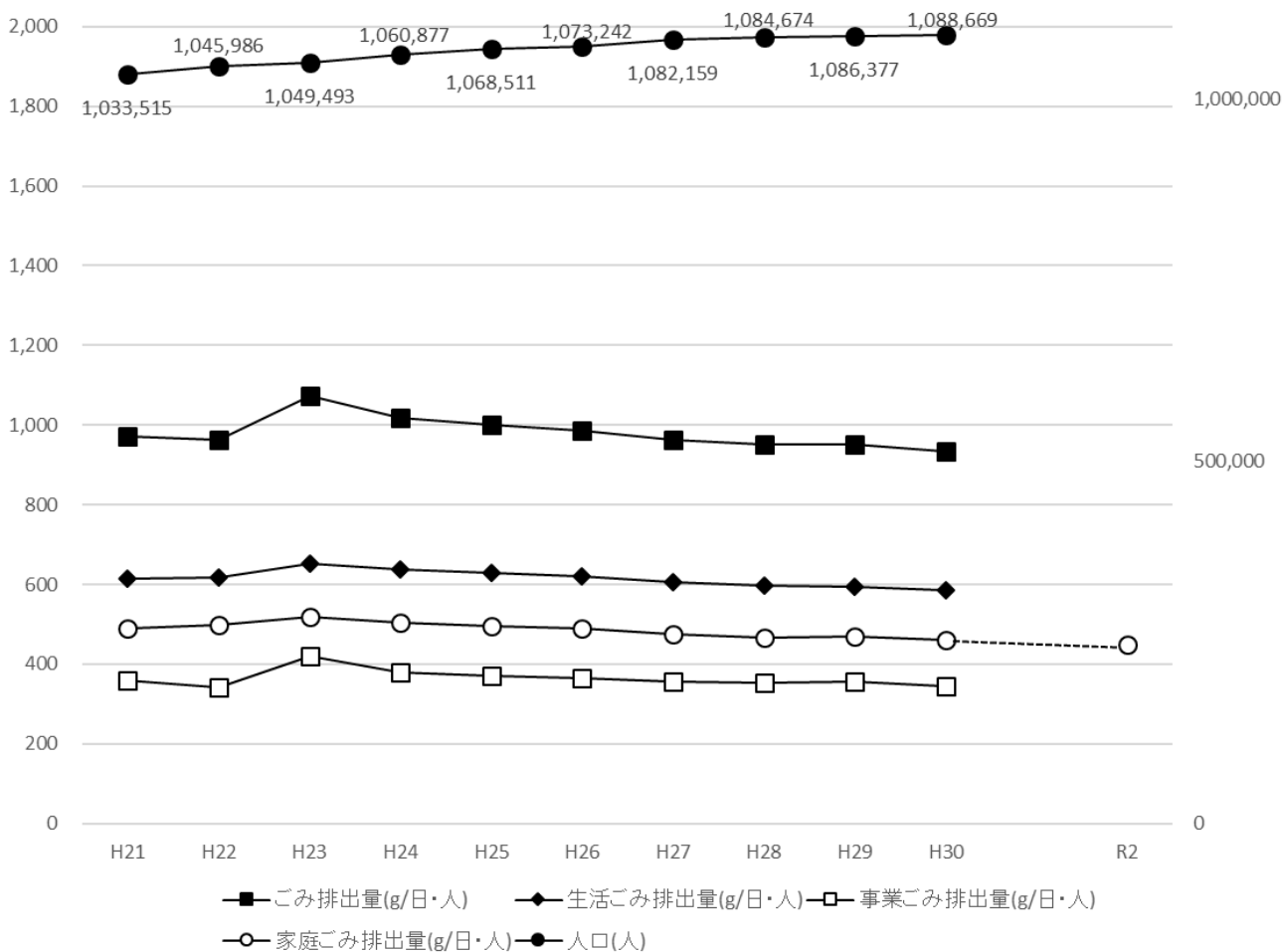


6 1人1日当たりのごみ排出量の推移

- ・「1人1日当たりの家庭ごみ排出量」は、平成30年度実績で462g/人・日となっており、平成21年度比で28グラム(5.7%)の減。目標達成に向けて順調に推移している。
- ・「1人1日当たりの生活ごみ排出量」、「1人1日当たりの事業ごみ排出量」のいずれも減少傾向にある。

(単位：g/人・日(特に記載がないものを除く))

	平成21年度	平成26年度	平成30年度			令和2年度	
			実績	21年度比	26年度比	目標	30年度実績比
1人1日当たりのごみ排出量	972	985	933	△39 △4.0%	△52 △5.3%	-	-
1人1日当たりの生活ごみ排出量	614	620	587	△27 △4.4%	△33 △5.3%	-	-
1人1日当たりの家庭ごみ排出量(再掲)	490	489	462	△28 △5.7%	△27 △5.5%	450	△12 △2.6%
1人1日当たりの事業ごみ排出量	359	365	345	△14 △3.9%	△20 △5.5%	-	-
【参考】本市人口(10月1日現在)(再掲)	1,033,515人	1,073,242人	1,088,669人	+55,154人 +5.3%	+15,427人 +1.4%	1,088,000人	△669 △0.1%

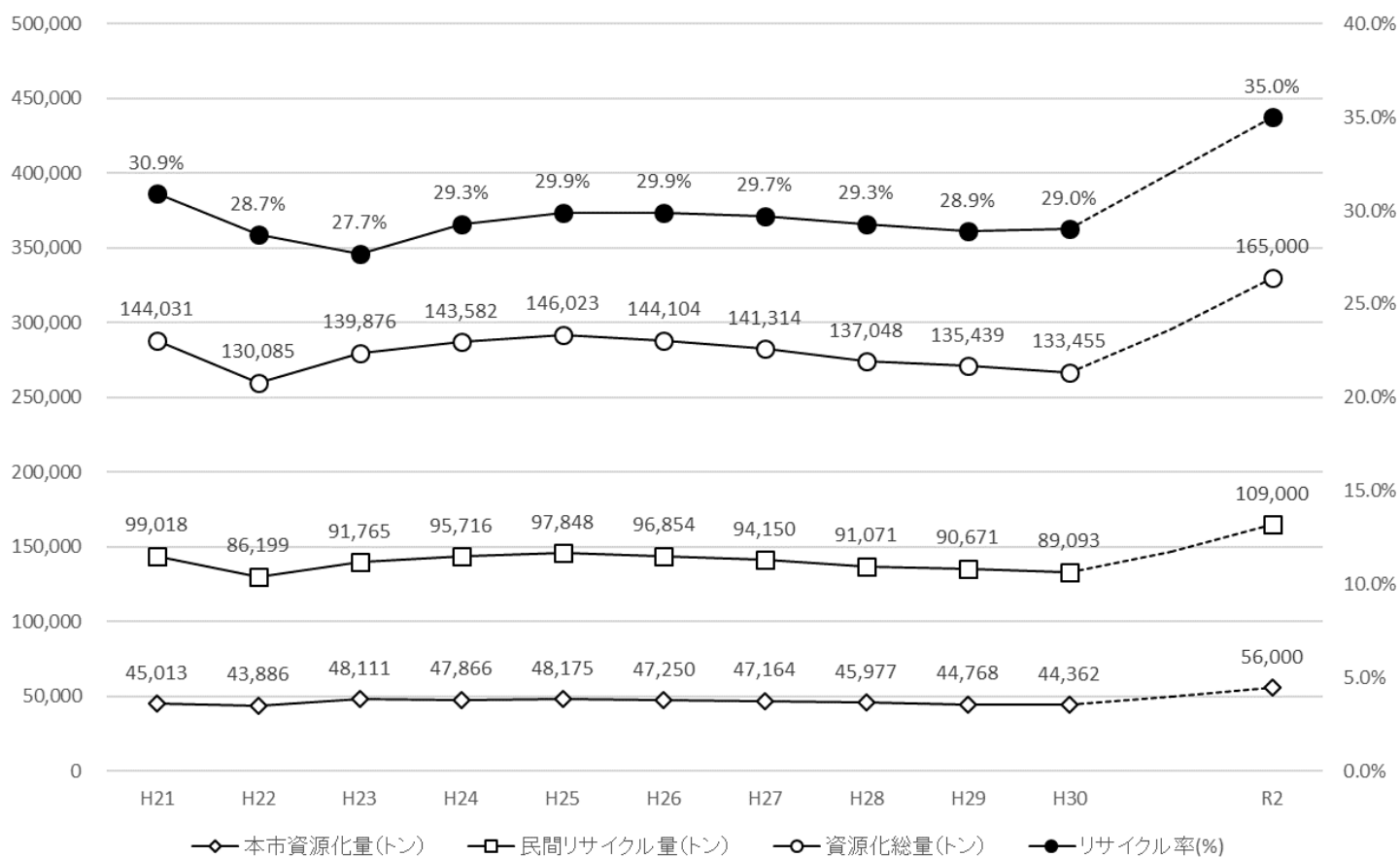


7 リサイクル率等の推移

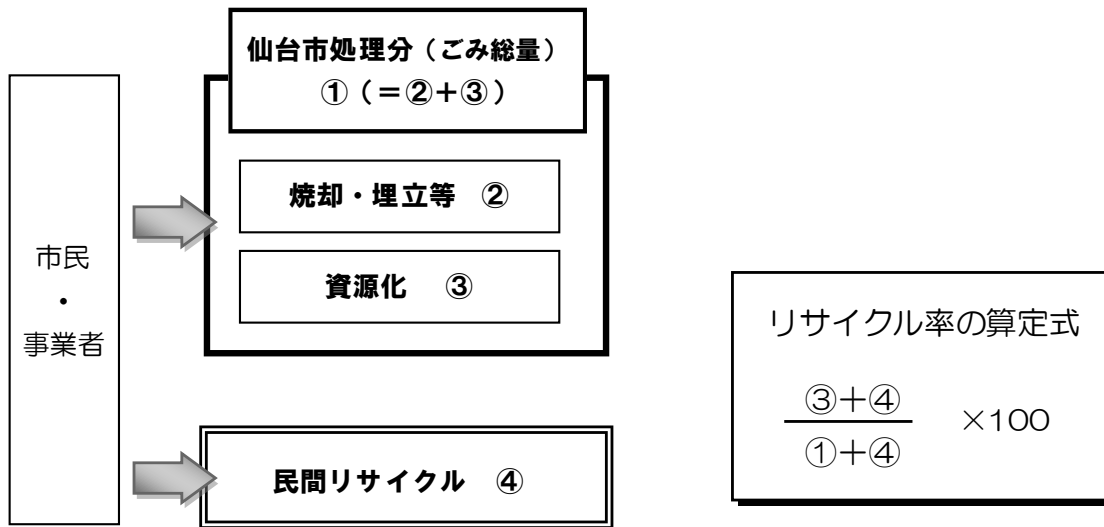
- ・「リサイクル率」は、東日本大震災による粗大ごみ（災害廃棄物）の増加等により一時減少したものの、その後30%までに回復し横ばいで推移。
- ・近年は電子出版の拡大等により、新聞・雑誌等の紙類が減少していることや、「民間リサイクル量」が減少していることが影響。
- ・「本市リサイクル量」については、容器重量の重いスチール缶やびん類が減少したことも要因。

(単位：トン (特に記載がないものを除く))

	平成 21 年度	平成 26 年度	平成 30 年度			令和 2 年度	
			実績	21 年度比	26 年度比	目標	30 年度実績比
リサイクル率 (再掲)	30.9%	29.9%	29.0%	△1.9ポイント △6.1%	△0.9ポイント △3.0%	35%	+6.0ポイント +20.1%
リサイクル量	144,031	144,104	133,455	△10,576 △7.3%	△10,649 △7.4%	165,000	+31,545 +23.6%
本市リサイクル量	45,013	47,250	44,362	△651 △1.4%	△2,888 △6.1%	56,000	+11,638 +26.2%
民間リサイクル量	99,018	96,854	89,093	△9,925 △10.0%	△7,761 △8.0%	109,000	+19,907 +22.3%



【参考：ごみ総量とリサイクル率の関係について】



基本計画に掲げる数値目標のうち、「ごみ総量」は上記の① (=②+③) であり、市民・事業者が排出したごみのうち、本市が処理したものの合計である。

一方、集団資源回収や事業者が分別排出した紙類など、市が直接関与しない資源物は「民間リサイクル」として計上される。

本市のリサイクル率は、これらの民間リサイクル量も含めて算出している。

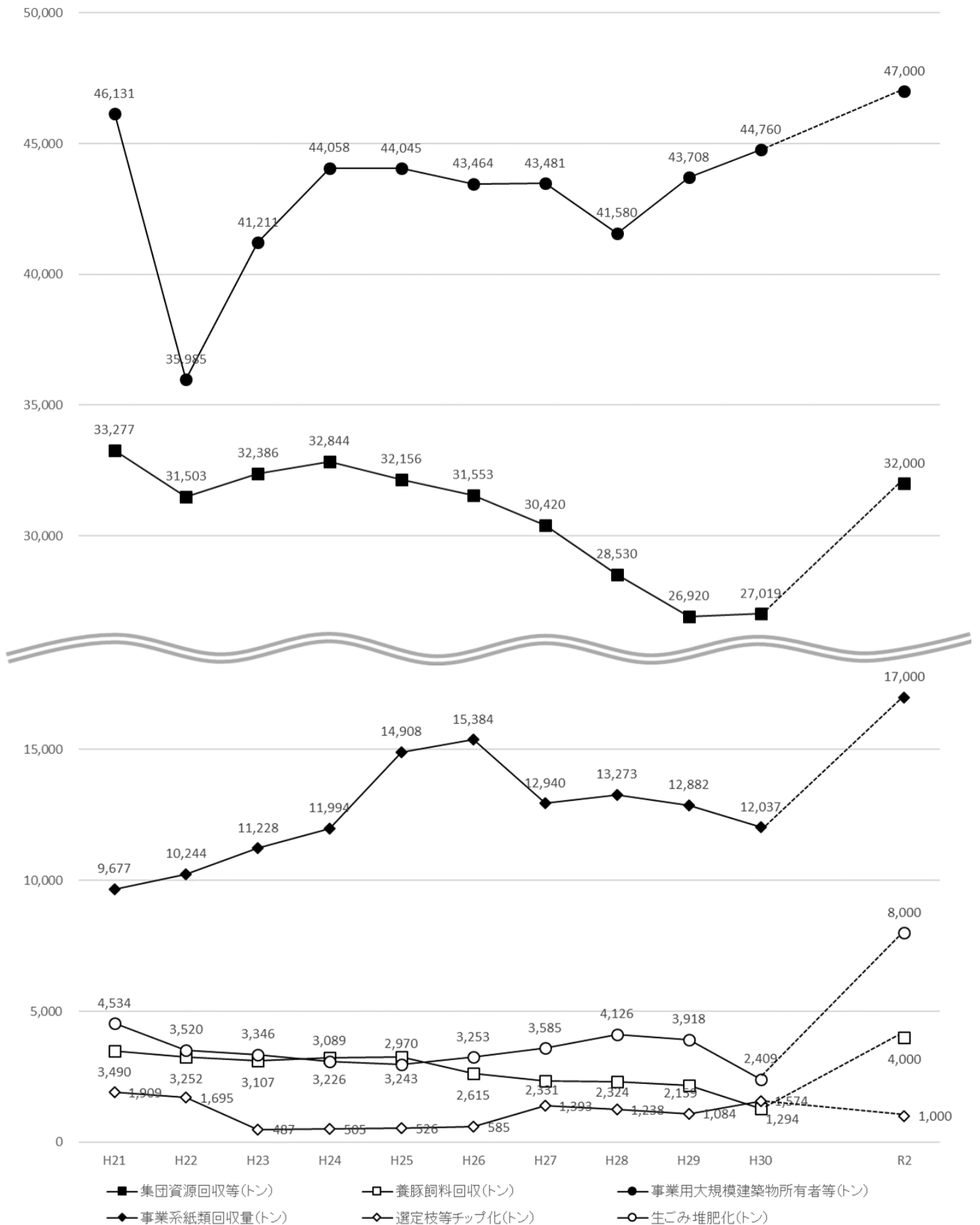
	平成30年度
仙台市処理分(ごみ総量) ① (=②+③)	370,566トン
生活ごみ	233,408トン
事業ごみ	137,158トン
(ごみの内数)本市リサイクル ③	44,362トン
民間リサイクル ④	89,093トン
③+④	133,455トン
①+④	459,659トン
リサイクル率(%) (③+④) ÷ (①+④)	29.0%

8 民間リサイクル量の推移

- ・「民間リサイクル量」は、全体で減少傾向となっている。
- ・「事業用大規模建築物所有者等」（大規模小売店舗等の所有者や、一般廃棄物を多量排出する事業者）によるリサイクル量は横ばいであるが、一方で「集団資源回収等」は大きく減少している。また、「事業系紙類回収量」（許可業者が収集・資源化した紙類）は、平成21年度実績を上回っているものの、近年は減少傾向。
- ・「養豚飼料回収」、「生ごみ堆肥化」については、リサイクル量としては少ないものの、事業縮小や処理施設の停止等により処理量の減少が続いている。

（単位：トン（特に記載がないものを除く））

	平成21年度	平成26年度	平成30年度			令和2年度	
			実績	21年度比	26年度比	目標	30年度実績比
民間リサイクル量（再掲）	99,018	96,854	89,093	△9,925 △10.0%	△7,761 △8.0%	109,000	+19,907 +22.3%
集団資源回収等	33,277	31,553	27,019	△6,258 △18.8%	△4,534 △14.4%	32,000	+4,981 +18.4%
養豚飼料回収	3,490	2,615	1,294	△2,196 △62.9%	△1,321 △50.5%	4,000	+2,706 +209.1%
事業用大規模建築物所有者等	46,131	43,464	44,760	△1,371 △3.0%	+1,296 +3.0%	47,000	+2,240 +5.0%
事業系紙類回収量	9,677	15,384	12,037	+2,360 +24.4%	△3,347 △21.8%	17,000	+4,963 +41.2%
剪定枝等チップ化	1,909	585	1,574	△335 △17.5%	+989 +169.1%	1,000	△574 +36.5%
生ごみ堆肥化	4,534	3,253	2,409	△2,125 △46.9%	△844 △25.9%	8,000	+5,591 +232.1%



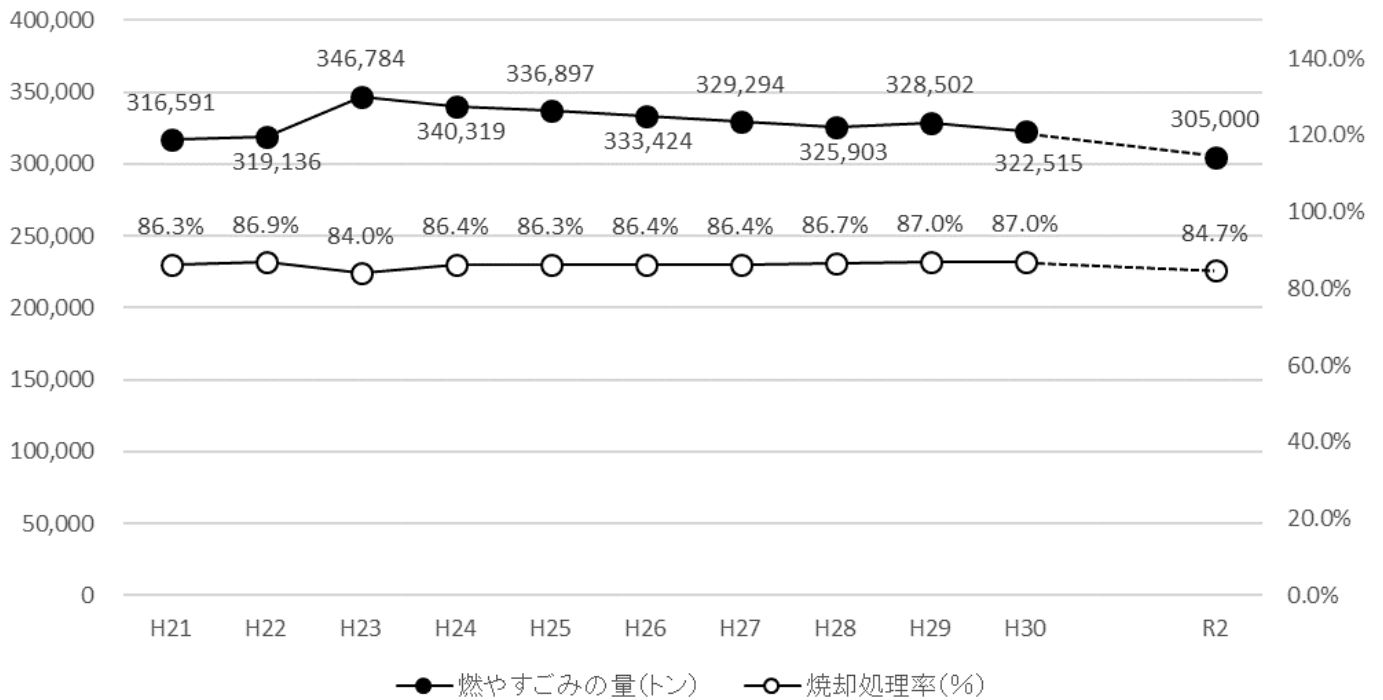
9 焼やすごみの量の推移

- ・「焼やすごみの量」は、平成 30 年度実績で 322,515 トンと、平成 21 年度比で 5,924 トン（1.9%）の増となっており、震災前の水準に戻りつつある。
- ・「焼却処理率」は震災前からおおむね 86～87%で推移している。
- ・平成 23 年度は東日本大震災直後で、粗大ごみ（災害廃棄物）の排出量が急増したことにより、焼やすごみの家庭ごみや事業系可燃ごみ等の比率が相対的に増加したことが低下の要因。

（単位：トン（特に記載がないものを除く））

	平成 21 年度	平成 26 年度	平成 30 年度			令和 2 年度	
			実績	21 年度比	26 年度比	目標	30 年度実績比
焼やすごみの量 （再掲）	316,591	333,424	322,515	+5,924 +1.9%	△10,909 △3.3%	305,000	△17,515 △5.4%
焼却処理率	86.3%	86.4%	87.0%	0.7ポイント +0.8%	0.6ポイント +6.9%	84.7%	△2.3ポイント △1.1%

※ 焼却処理率 = 焼やすごみの量 ÷ ごみ総量



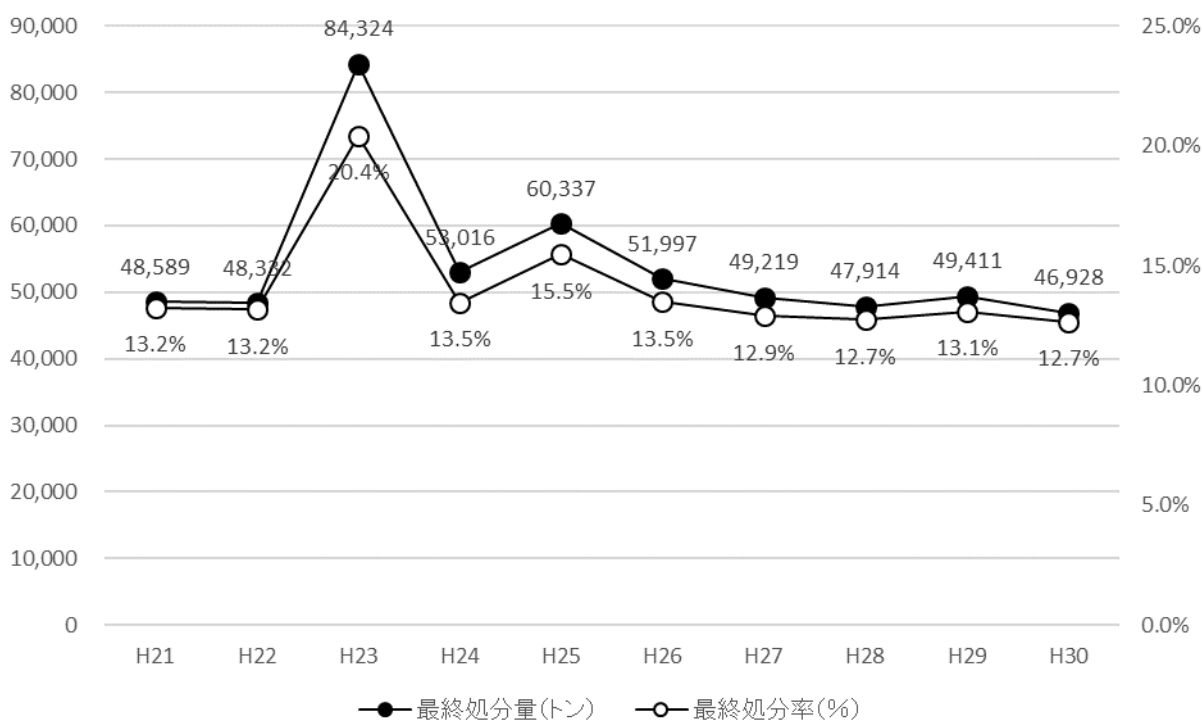
10 最終処分量等の推移

- ・「最終処分量」及び「最終処分率」はともに減少傾向にある。
- ・東日本大震災直後は、粗大ごみ（災害廃棄物）等の不燃性残渣物や、燃やすごみ量が増えたことにより焼却灰が一時的に増加。
- ・「最終処分量」の削減は、処分場の延命化に寄与することから、今後の持続可能な社会づくりに向けても、さらなるごみ減量が必要。

(単位：トン (特に記載がないものを除く))

	平成 21 年 度	平成 26 年 度	平成 30 年度		
			実績	21 年度比	26 年度比
最終処分量 (本市分)	48,589	51,997	46,928	△1,661 △3.4%	△5,069 △9.7%
最終処分率 (本市分)	13.2%	13.5%	12.7%	△0.5ポイント △3.8%	△0.8ポイント △5.9%

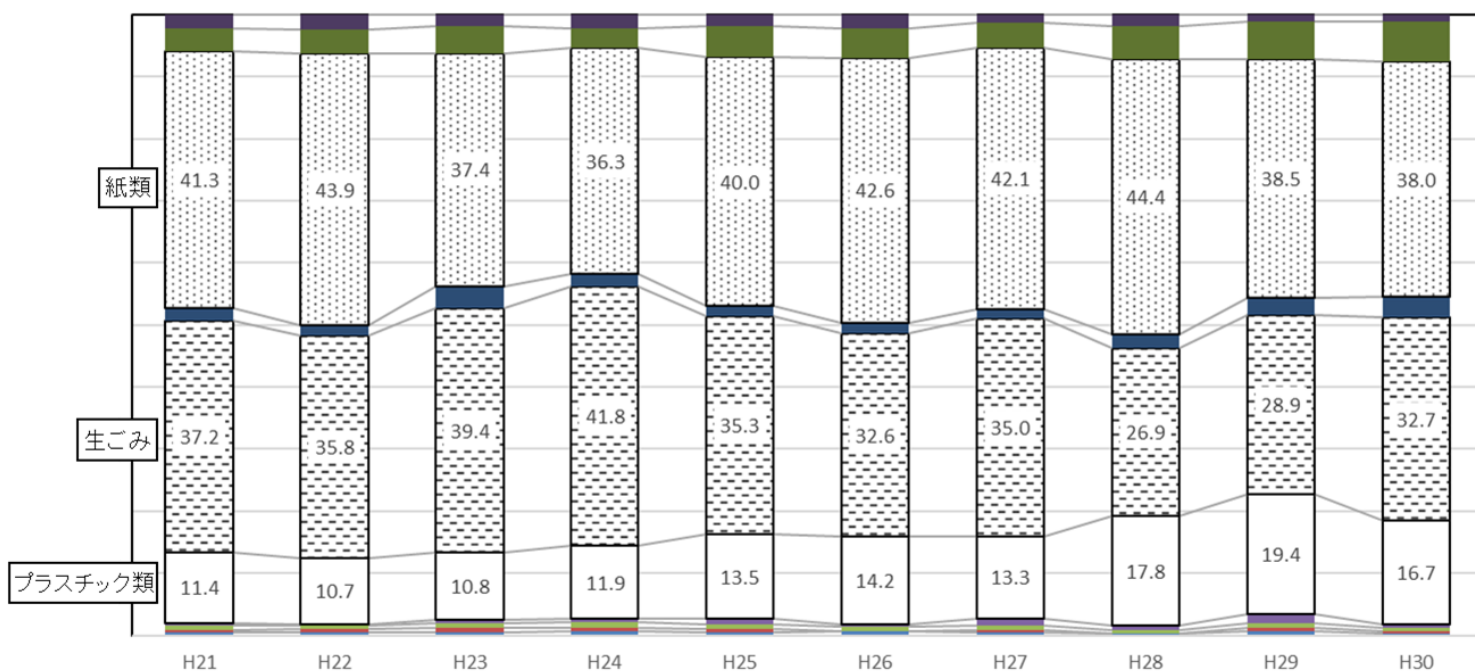
※ 最終処分率 = 最終処分量 (本市分) ÷ ごみ総量



11 家庭ごみ組成の推移（平成 21～30 年度）

- ・家庭ごみの組成は、紙類、厨芥類及びプラスチック類が全体の約 9 割を占めている。
- ・紙類については、雑紙の分別等の普及・啓発に取り組んでいるものの、未だ 4 割程度が混入。
- ・プラスチック類については、近年 2 割弱の混入が認められ、その割合は増加している。
- ・紙類及びプラスチック類の詳細な組成分析を実施したところ、紙類の約 6 割、プラスチック類の約 7 割がリサイクル可能なものであることが判明。

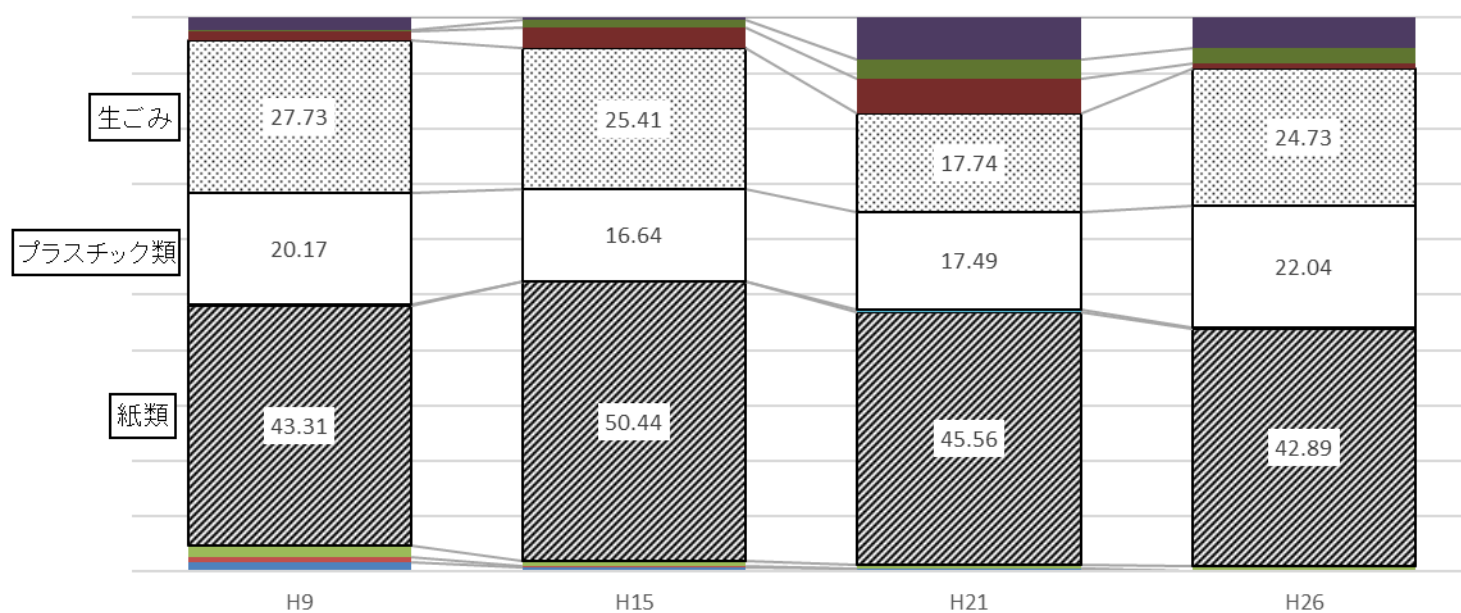
（単位：%、全体を 100%として）



12 事業系可燃ごみ組成の推移（平成 9、15、21 及び 26 年度）

- ・事業系可燃ごみの組成は、家庭ごみと同様、全体の約 9 割が紙類、厨芥類及びプラスチック類で占めており、特に紙類の割合が高い。
- ・平成 26 年度に詳細な組成分析を行ったところ、紙類（42.9%）の約 5 割がリサイクル可能な紙類であったことが判明。
- ・事業系プラスチック類の場合、分別排出すると産業廃棄物となり処理コストが高額となることや、家庭のプラスチック製容器包装のような法的裏付けがないこと等が分別の妨げとなっていると推測。

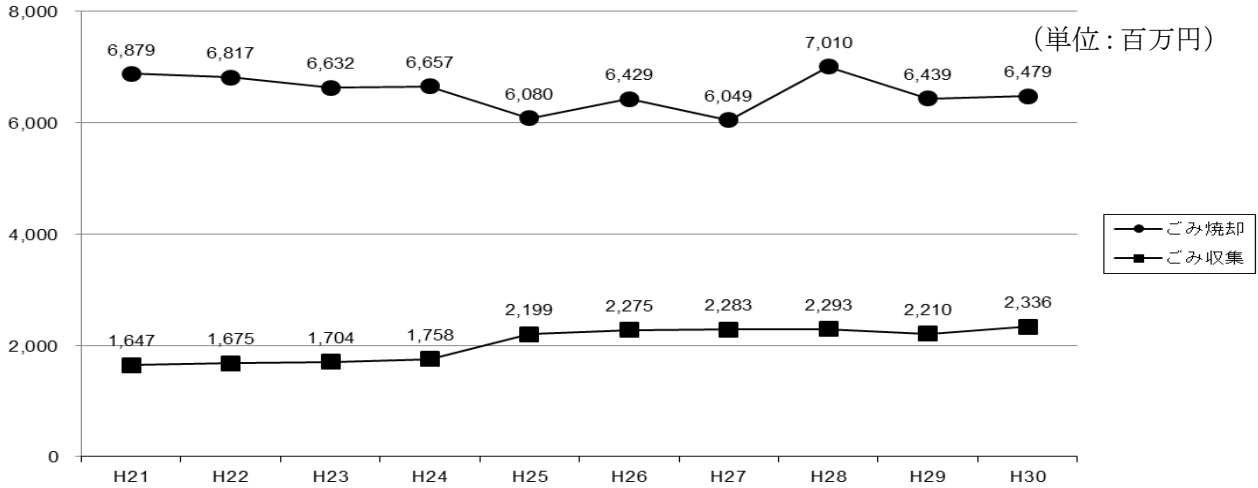
（単位：%、全体を 100%として）



13 ごみ処理費用の推移

【ごみ収集及びごみ焼却費用の推移（平成 21～30 年度）】

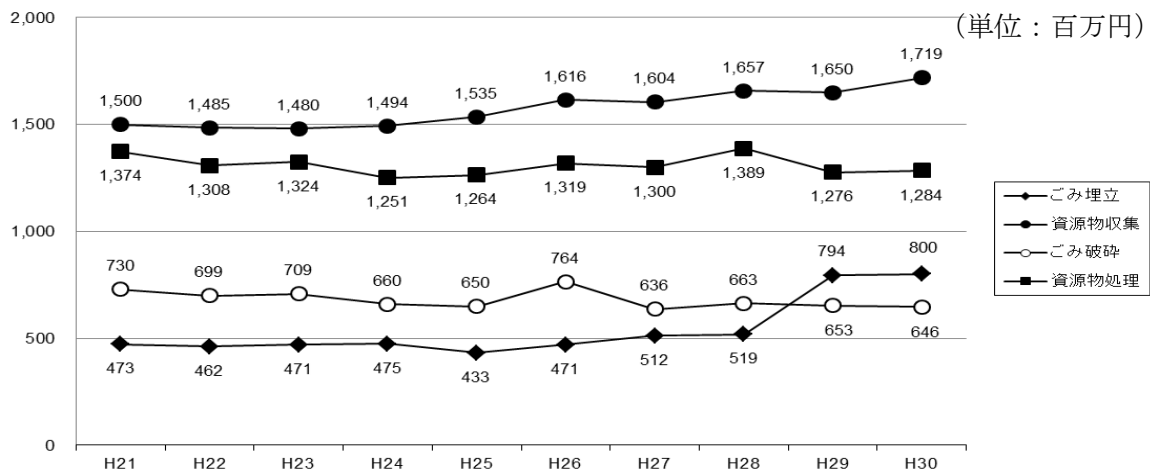
- ・ごみ収集費用は、人件費や燃油代などの物件費が高まったことに伴い、上昇傾向となっている。
- ・ごみ焼却費用は、平成 28 年度に葛岡工場の基幹改良工事により一時的に高まったが、全体的には減少傾向。



※ごみ収集費用：家庭ごみ、粗大ごみ、臨時ごみ及び地域清掃ごみ等の収集費用

【ごみ破碎、ごみ埋立、資源物収集及び資源物処理費用の推移（平成 21～30 年度）】

- ・資源物収集費用は、人件費や燃油代などの物件費高まったことに伴い、全体的に上昇傾向。
- ・資源物処理費用は、平成 28 年度に葛岡資源化センターの基幹改良工事に伴い、一時的に高まったが、全体的には低下傾向。
- ・ごみ破碎費用は、平成 26 年度に今泉工場粗大ごみ処理施設の補修工事に伴い一時的に高まったが、全体的には低下傾向。
- ・ごみ埋め立て費用は、石積埋立処分場の第二期拡張工事の本格化に伴い、近年上昇している。



※資源物収集費用：缶・びん・ペットボトル等、プラスチック製容器包装及び紙類定期回収等収集費用

※資源物処理費用：缶・びん・ペットボトル等及びプラスチック製容器包装等選別・資源化費用